

青森県の海岸特性について

八戸工業大学 学生会員 〇小屋畑 誠
正ッ 佐々木 幹夫

1. 諸言

青森県は三方海に囲まれ、海岸線総延長 681.12 km で、日本海側と太平洋側では波浪特性も異なる。近年田中 (1980) は全国の海浜区分を論じる中で青森県の海岸特性を明らかにしている。本報文は田中の研究に習い、青森県の海浜特性を検討してみたものである。

2. 青森県海岸の底質特性

昭和55, 56年の8月に行なった海岸調査の際の採砂地点をFig. 1に示す。これらの地点の中央粒径をFig. 2に示す (前次の中央粒径 d_{50})。



Fig. 1 採砂地点

Fig. 2より 青森県砂浜海岸の中央粒径の分布がわかる。この d_{50} 分布より、細砂 ($0.42 > d_{50} \geq 0.074$)

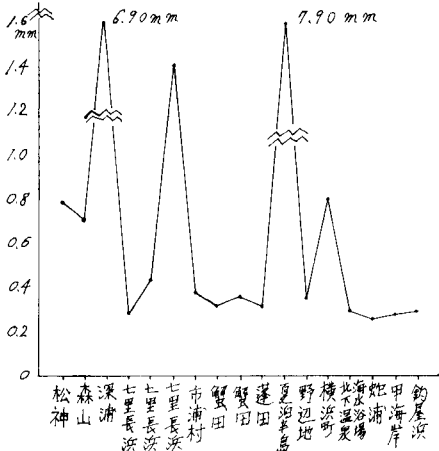


Fig. 2 青森県砂浜海岸の中央粒径分布

粗砂 ($2.00 > d_{50} > 0.42 \text{ mm}$) および礫の交として表示すると Fig. 3 のようになる。図より、津軽半島日本海岸七里長交、陸奥湾蟹田-青森沿岸、下北半島太平洋沿岸、野辺地沿岸に細砂の砂浜がみられる。西津軽海岸深浦、鰺ヶ沢沿岸は新第三紀の火山岩よりなる絶壁、岩礁のみられる海岸であるが、点在するポケットビーチの底質は粗砂・礫である。

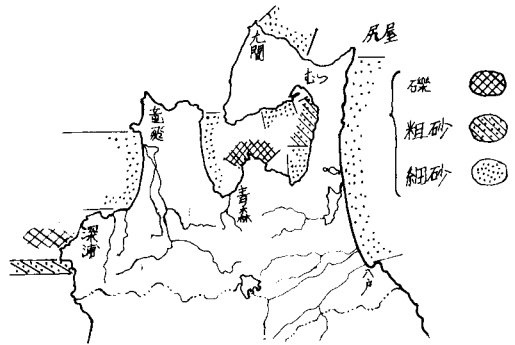


Fig. 3 青森県沿岸の底質分布

3. ポケットビーチ

日本海側は1 km 以上4 km 以下のポケットビーチが4つ、1 km 未満が2つあり、太平洋側は1~4 km の範囲のものが3つ、1 km 未満が1つあり、太平洋側のポケットビーチに比べ日本海側の方が規模も数倍大きくなっており、日本海側の方は特に海水浴場として貴重な役割をなしている。

さらに、規模の大きなスケールで青森県沿岸をみれば、日本海側に七里長交、陸奥湾に野辺地からむつ市にかけての砂浜、太平洋側に小川深浦海岸の砂浜があり、circular arc をおさめるような形状の海岸線が形成されている。

4. 結言

青森県海岸の特性を主として砂浜の分布、規模、底質の分布を検討するなどで明らかにしてみた。今後は沿岸部の海底地形を明らかにする予定である。